

研究課題名	下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術前後における非造影 MRV の有用性
研究の意義・目的	<p>下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術は従来の外科的ストリッピング手術よりも低侵襲で、広く普及している治療法です。しかし、術後数年の経過で、再発をきたすことがあり、不全穿通枝からの逆流がその原因の一つとしてよく知られています。現在下肢静脈瘤の診断と、血管内治療適応の判断は超音波検査が主流ですが、超音波検査や客観性や再現性が乏しい、穿通枝を含む下肢全体の血管の把握が難しいという欠点があります。</p> <p>この研究では客観的な判断基準としての血管内焼灼術前後における非造影 MRV 検査の有用性および、術後再発の危険因子について、後方視的に検討します。</p>
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2027年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2012年5月～2016年12月に大東中央病院の放射線科で、下肢静脈瘤の治療のため、診療、入院された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診療情報等：【診断名、年齢、性別、MRI 画像、超音波検査所見、血管内治療所見】</p>
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院放射線科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院放射線科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断・IVR 学 研究責任者 山本 晃
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については大阪公立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断・IVR 学</p> <p>(担当者氏名) 村井 一超</p> <p>電話番号：(06) 6645-3831</p> <p>メールアドレス：gr-med-radiology@omu.ac.jp</p>